

令和元年度 碧南市文化財展

三河での瓦づくり 伝承と歴史



小諸城大手門(長野県・国重要文化財)

大手門の風破した瓦は素人の技では難いため、天明8年(1788)、大浜村に生まれた瓦師 藤沢伊助が、この地に赴き、瓦を修復しました。

令和元年 **11月9日(土)~24日(日)**

午前9時~午後9時 (月曜日休館)

会場 / **碧南市文化会館 1階 展示室1**
(愛知県碧南市源氏神明町4)

主催 / **碧南市教育委員会**

主管 / **碧南市文化財保護審議会**

観覧無料



「参州碧海郡瓦師五兵衛板」
正保元年(1644)頃 東端村の
瓦師五兵衛が葺いたとされる。
松本城管理事務所蔵

三河での瓦づくり 伝承と歴史

仏教文化として伝来した瓦は、国内で仏教が広まるのに伴い、古代寺院建築に使われ全国に広まりました。そこには、粘土を焼いて瓦を造るための豊富な知識や経験、技術を有する瓦師が、都などから他の土地の建築現場に招かれ長期にわたり住み着き、建物を完成させています。やがて、瓦は、寺社や権力者など富を持つ人々の屋根を飾り、江戸時代に入ると江戸、京都、大坂などでは財力のある庶民も瓦屋根を求めるようになり、江戸時代中頃から急激に瓦の需要が都市で高まると、全国各地で大都市向けの瓦産地が形成されはじめました。



ギネス認定 世界最大の鬼瓦
鬼亮 梶川亮治・俊一郎 製作
(念佛宗無量壽寺・兵庫県)

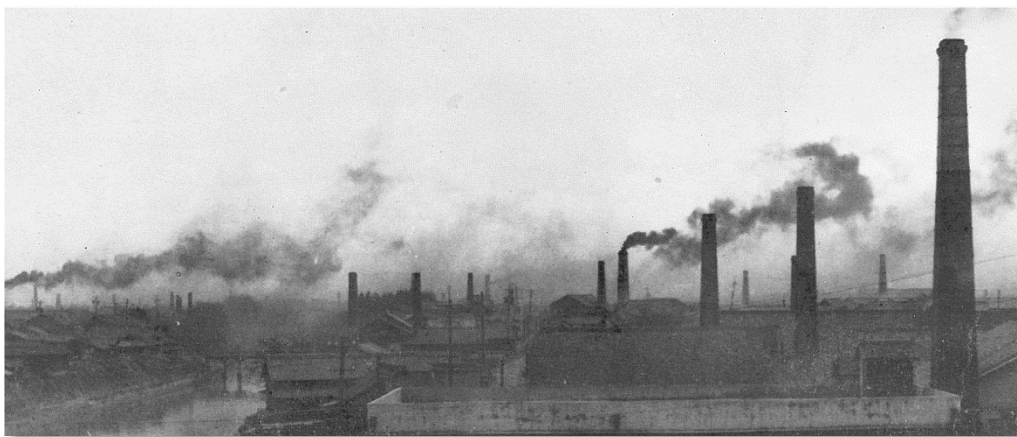
三河で焼かれた瓦は、大浜、新川、高浜などの港から廻船の船底に積み込まれ、三河木綿、三河酒とともに江戸などへ送られました。この頃から、三河でつくられた瓦は三州瓦と呼ばれました。

質と価格から瓦産地間の淘汰が進む中、三州瓦は豊富な粘土と水運に恵まれたことから、淡路瓦(兵庫)、石州瓦(島根)と共に三大瓦産地の一つになりました。さらに戦後には、真空土練機、トンネル窯などを開発する企業がこの地域にあったことから、いち早く量産化に成功し、近年では全国の瓦生産の実に70%近くを生産しています。



元禄 14 年(1701)の鬼瓦
西尾瓦町 原田八左衛門作
(伊文神社蔵・西尾市)

本展では、碧南市に残された史資料、瓦、瓦づくりの道具を中心に展示します。また、解説書では、瓦づくりに携わられた子孫への伝承や瓦生産を支える機械を設計された人々を紹介します。



昭和 30 年代の新川運河風景

主な展示品(パネル展示を含む)

- ① 三州瓦わたり職人が旅先へ持ち歩いた道具箱と職人道具
- ② 瓦職人太子講掛け軸(二幅)
- ③ 棧瓦型板、袖瓦(そでがわら)受型
- ④ 軒瓦の石こう型、軒瓦の木型、軒先瓦の巴型
- ⑤ 江戸冠瓦の受型、江戸冠瓦の荒地型
- ⑥ 鳥羽神宮寺古代瓦、百済古代瓦
- ⑦ 西尾城元禄鬼瓦、西端藩主屋敷瓦、鷲塚願随寺元禄鬼瓦
- ⑧ 三河での瓦づくり年表

碧南市教育委員会 文化財課
市民史資料調査室

〒447-0872

愛知県碧南市源氏神明町2
市民図書館中部分館 2階
TEL(0566)41-4566